

OnAir 1500 ユーザーレポート

北日本放送株式会社 様

OnAir 1500-6F



ラジオ第7スタジオを OnAir 1500 で更新



北日本放送株式会社
技術部
坂又 晶

OnAir 2000 を更新

北日本放送ではラジオ第7スタジオを2015年3月に更新しました。2001年よりSTUDER社のOnAir 2000で放送してきましたが、マスター更新を機に第7スタジオも同時に更新を行いました。ラジオ第7スタジオは他のラジオスタジオとは違い、報道部フロアに設置され、主にラジオの定時ニュースを伝えているワンマンスタジオです。緊急時の割り込みもこのスタジオから行っています。アナウンサーはBGMをかけたり、交通情報センターの音声フェーダを操作し交通情報を放送したり、APS-TAKEでCMを出したりと煩雑な操作を行いながらニュースを読んでいます。そのため第7スタジオには日々のニュースを伝える圧倒的



な信頼性ととも、アナウンサーへの負担を軽減できるシンプルな操作性の音声卓が求められました。更新にあたっては使用者であるアナウンサーへアンケートを行いました。音声卓への要望・不満は少なく「原稿を置く場所が狭い」など機能に関すること以外への要望が多くありました。これは更新前のOnAir 2000がシンプルで使いやすい卓であったためと思われる。

1晩で切り替え

切り替えは、使用頻度の高いスタジオのため1晩で行いました。習熟期間が無いためアナウンサーへは万全を期して、OnAir 1500を事前に別の部屋で一度組み上げて説明を行いました。音声卓の説明はそこそこに周辺機器の説明会となってしまいました。これもOnAir 2000からの使用感を踏襲したOnAir 1500へと更新したことによるメリットであり、実際の切り替えも混乱無くスムーズに行うことができました。

コンパクトなサーフェイス

OnAir 1500のサーフェイスは非常にコンパクトで机の上に置くことができるため、今回は特注の机を発注しました。音声卓本体のNano

COREはテーブル下のラックに収め、周辺機器は机上のラックに収納することでスッキリと使い勝手の良い配置になりました。机面は周辺機器のリモコン等を置いた上で、原稿を置いても十分なスペースを確保しました。更新後、アナウンサーからは「机面が広くて原稿を読みやすい」「音声卓が変わったことによる不安は全く無い」と評価されました。

Route 3000とRELINK接続

最後に、今回同時更新したマスターの中継装置にRoute 3000を導入しました。Route 3000とOnAir 1500をRELINKでつなぐことによって音声素材の共有が簡単にできるようになり、コンパクトながら大きな卓のような仕事ができるポテンシャルを秘めた卓となっています。

